

今日のキーワード 党首退任の『メルケル』、首相続投できるのか？

2005年から長きに亘りドイツ首相を務める『メルケル』氏は、州議会選挙での連敗を機に党首を退任する意向を表明しました。2015年に深刻化した難民問題が求心力低下のきっかけであり、与党の支持率低下の一方で極右政党の「ドイツのための選択肢」が支持を拡大しています。『メルケル』首相は2021年の任期満了まで首相を務めるとしていますが、党首交代等、今後の展開ではそれも危ういとの見方も出てきています。

ポイント1 求心力が低下する『メルケル』首相 難航した政権発足から半年、与党牙城の州議会選挙で連敗

- ドイツの『メルケル』首相は、与党・キリスト教民主同盟（CDU）の12月党大会での次期党首選挙に出馬しない意向を表明しました。『メルケル』首相は2000年からCDUの党首を務め、2005年には首相に就任しました。そして2017年9月に行われた総選挙では、議席を減らしながら辛くも4選を果たしました。しかし、連立交渉は難航し、今年3月の政権発足まで半年を要するなど、求心力の低下が懸念されてきました。
- 最近では与党内部の抗争が表面化していました。加えて、10月に行われたバイエルン州とヘッセン州の州議会選挙では、これまで与党の牙城だったにもかかわらず、第1党の座を確保しつつも大幅に議席を減らし、与党は大敗を喫しました。『メルケル』氏は敗選の責任を取る形で、次期党首選挙への立候補を断念しました。

ポイント2 極右政党・Afdの躍進 きっかけは移民問題への不満の高まり

- 『メルケル』氏は主要国の中でも首相在任期間が長く、欧州政治の要と見られています。しかし、2015年に欧州で難民問題が深刻化するなか、当初『メルケル』首相は難民受け入れに柔軟な姿勢を示したことで、ドイツ国内では不満が高まっていき、与党の支持率低下に繋がりました。
- 一方で、支持率を高めてきているのが、「ドイツのための選択肢（Afd）」です。Afdは、2013年に反欧州連合（EU）を掲げて結党された極右政党で、反移民でもあり、支持を拡大してきています。バイエルン州議会選挙では、得票率10.2%で初めて議席を獲得しました。



今後の展開 首相職は任期満了まで持つか、来月の与党党首選に注目

- 12月のCDU党大会で実施予定の次期党首選の候補として、現在6名の名前が挙がっており、このうちクランプカレンバウアー氏、シュパーン氏、メルツ氏の3名が有力と見られています。クランプカレンバウアー氏はミニ『メルケル』とも言われる親『メルケル』で、同氏が当選した場合には比較的スムーズに移譲が可能と見られます。一方、残り2名は反『メルケル』です。『メルケル』氏は党首を退任しても、首相は任期満了の2021年まで務めるとしていますが、次期党首が反『メルケル』となった場合、求心力の維持は一段と難しくなると見られます。

ここもチェック! 2018年10月30日 『ブラジル大統領選挙』は極右の勝利
2018年 7月 6日 EUでくすぶり続ける『難民』問題

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。